（ 様式D－２ ）
（ 別　　紙 ）

令和７年度　海外派遣研究員研究報告書〔研究実績〕

令和７年９月４日

日本大学理事長　　殿
日 本 大 学 学 長　　殿

所　　属　　理工学部　（理工学研究所）
資格・氏名　　准教授・泉山　塁威

令和７年度海外派遣研究員（　短期Ｂ　）の研究実績を，下記のとおり報告いたします。

記

１　区　　分　　短期Ｂ
２　研 究 課 題

中心市街地における広域歩行者空間化のプロセス及び手法に関する研究

３　派 遣 期 間　　西暦 2025 年８月７日 ～ 2025 年９月４日
４　派　遣　先　　○デンマーク，スウェーデン，フランス
５　研 究 目 的

本研究の目的は，日本の中心市街地における広域歩行者空間化（Extensive Pedestrianization）のプロセス及び手法を体系的に明らかにすることである。歩行者空間化は，都市計画や都市デザインにおいて重要なテーマであり，都市の持続可能性や住民の生活の質の向上を目指す取り組みとして世界中で注目されている。

（ 様式D-２ ）

６　研 究 概 要

① 研究の方法

本研究の目的を達成するため，広域歩行者空間化の先進事例であるデンマーク（コペンハーゲン，オーフス），スウェーデン（ストックホルム，マルメ），フランス（パリ）の都市において，主要な歩行者空間の**現地調査**及び都市計画の専門家へ**インタビュー**を実施した。また，関連する都市計画資料や**文献レビュー**，**政策分析**も併せて行い，各都市の広域歩行者空間化に至る具体的なプロセスと手法，その背景にある政策的枠組みを比較分析した。

② 渡航先での活動内容

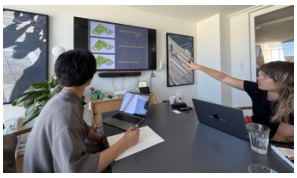
各派遣先での主な活動内容は以下の通りである。

- **デンマーク（コペンハーゲン，オーフス）：８月７日～8月 24 日**
  - コペンハーゲンにて，ストロイエ（Strøget[1]）の広域歩行者空間の実態を現地調査し，中心市街地における沿道店舗と歩行者空間の関係（アイレベル）や滞留空間の状況，交通機能（自転車，自動車）の関係を含めた街路ネットワークの状況を確認した。その他，Nyhaven，Superkilen Park[2]，Tåsinge Square，Operaparken，Reffen，Copenhil 等パブリックスペースの状況を確認した。



Strøget（コペンハーゲン）

  - Gehl[3]（ヤン・ゲール事務所）Sophia 氏[4]へのインタビュー調査を実施した。コペンハーゲンの Strøget の変遷と Jan Gehl[5]の果たした役割，Gehl 事務所の関わり等を把握した。



Gehl インタビュー

---

[1] Strøget，https://www.visitcopenhagen.com/copenhagen/planning/stroget-gdk414471（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

[2] BIG,Superkilen，https://big.dk/projects/superkilen-1621（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

[3] デンマーク・コペンハーゲン市に拠点を置くパブリックスペースコンサルタント Gehl https://www.gehlpeople.com/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

[4] Gehl 事務所，Portfolio Director を務める，Sophia Schuff，Gehl https://www.gehlpeople.com/people/sophia-schuff/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

[5] 元王立芸術アカデミー教授であり，コペンハーゲンのパブリックスペースの戦略を Public Space Public Life 調査を元に提案した Jan Gehl，https://www.gehlpeople.com/people/jan-gehl/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

- コペンハーゲン市 Nina Moesby Bennetsen 氏[6]へのインタビューを実施し，コペンハーゲンのパブリックスペース戦略，リサーチ手法についてヒアリングを行った。
  - コペンハーゲンに Technical and Environmental Administration（技術・環境行政部）[7,8]が組成された。公共スペースに関する政策・事業・調査を専門的に担う中心部局であり，Urban Development，Urban Plan，Urban Design，Public Space の担当官が所属しており，1990 年代に組織化した。
  - 2006 年に「Urban Space Action Plan」[9,10]を策定し，Jan Gehl の Public Space Public Life 調査がコペンハーゲンの政策に昇華した。
  - コペンハーゲンのオープンカフェ許可制度[11]，シェアードストリート[12]の詳細と状況を確認した。



ローカルプラン


コペンハーゲン市インタビュー



オーフスのパークレット

---

6 コペンハーゲン市モビリティ専門官（Københavns Kommune, Specialkonsulent, Mobilitet）https://www.velo-city-conference.com/en/programme/speakers/nina-moesby-bennetsen/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

7 City of Copenhagen, City Government 2022 - 2025, 2023

8 The Technical and Environmental Administration , https://international.kk.dk/about-copenhagen/administrations/the-technical-and-environmental-administration（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

9 City of Copenhagen, Copenhagen Action Plan Urban Space, 2006,

10 Jean-Pierre Charbonneau Urbaniste, https://www.jpcharbonneau-urbaniste.com/feconder/villes/copenhague/copenhagen-urban-space-action-plan/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

11 City of Copenhagen, Cafés, restaurants and outdoor areas, https://international.kk.dk/business/permits-and-licences/cafes-restaurants-and-outdoor-areas（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

12 City of Copenhagen, Copenhagen 2013-2020 Traffic Safety Plan, 2013

- Strøget の沿道権利者の合意形成及びストリートの整備・更新方針は，ローカルプラン[13]で合意し，市の計画的位置付けがあることが確認できた。



パークレット（ストックホルム）

- 8 月 22 日～24 日には，デンマーク第二の都市オーフスへ移動。コペンハーゲンの Strøget を比較対象として，オーフスの広域歩行者空間ネットワークとパークレットの現地調査を行った。
  - オーフスの Strøget[14]は主に Ryesgade, Søndergade 等から構成される全長約 850m の主要ショッピング・歩行者専用ストリートである。
  - オーフス市パークレット制度は，グリーン政策「A GREENER AARHUS」[15]の一環として実施されていることが明らかになった。


ヴァンソン藤井由美氏インタビュー

- **スウェーデン（ストックホルム，マルメ）： 8 月 24 日～8 月 29 日**
  - ストックホルムにて，Spacescape[16]代表の Alexander Ståhle 氏[17]へインタビューを行い，ストックホルムの歩行者空間化の取り組みについてヒアリングを行った。
    - Street Moves[18]は，2020 年にストックホルム市とスウェーデン国家イノベーション庁（Vinnova），建築デザイン国家機関 ArkDes が始動したプロジェクトであり，「2030 年までに国内全ての道を健康的で持続可能で活気あるものに再編」が目的である。仕組みは「標準的な駐車スペース 1 台分」に収まる木製プラットフォーム“キット”を開発し，パークレットの形態の様相がある。



Paris respire の事例


パリ・プラージュ

---

13 København Kommune, Lokalplan nr. 152, 1990

14 Visit aarhus, Strøget - The pedestrianised high street, https://www.visitaarhus.com/aarhus-region/plan-your-trip/stroget-pedestrianised-high-street-gdk603415（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

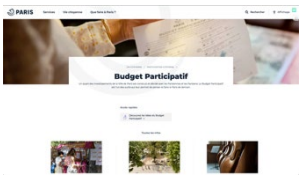
15 City of Aarhus, Technical and Environmental Administration, A GREENER AARHUS City of Aarhus' Policy on Nature and Green Surroundings, 2023

16 スウェーデン・ストックホルム市に拠点を置くアーバンデザイン事務所 Spacescape https://www.spacescape.se/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

17 Spacescape 代表であり，ストックホルムほかヨーロッパを中心に都市デザインを務める Alexander Ståhle, https://www.placemakingx.org/people/alexander-stahle（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

18 Street Moves, https://arkdes.se/projekt/street-moves/（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

- スウェーデン南部の都市**マルメ**に移動し，元 Gehl 事務所であり『ソフトシティ』[19]の著者でもある David Sim 氏 [20]へのインタビュー調査を行った。



Budget Participatif

- **フランス（パリ）： 8 月 29 日～9 月 3 日**
  - シャンゼリゼ通りやパリ・プラージュ等，近年の主要なパブリックスペースの歩行者空間化の展開について現地調査を行った。
  - 『フランスのウォーカブルシティ』[21]の著者であるヴァンソン藤井由美氏にヒアリング調査を行い，フランスにおける近年のウォーカブル政策や「15 分都市」の動向について調査を行った。
  - 2014 年にパリ市の「Paris respire・深呼吸するパリ」[22]で，「広場を自動車から解放する」(Place libérée des voitures)，「あなたの地域を美しくする」(Embellissez votre quartier)，「街路を緑化する」(Végétalisation des rues) の政策を発表した。
  - 公共事業の市民の合意形成に，IDEE PARIS（Madame La Maire, j'ai une idée）（現在の Budget Participatif[23]）にて市民投票や地権者等の合意形成ワークショップの結果をオンラインプラットフォームにアップし，透明性と公開性を担保することで，市民の税金の使途や公共事業の参加を促し，プロジェクトを早期に意思決定し，事業化していることが明らかになった。

7　研究結果・成果

本研究派遣により，欧州 3 カ国 5 都市の先進事例調査を通じて，以下の研究結果及び成果が得られた。

---

19 ディビッド・シム著，北原理雄翻訳，ソフトシティ ――人間の街をつくる，鹿島出版会，2021

20 元 Gehl・現 Think Softer 共同代表，David Sim，https://www.thinksofter.com/we-are-softer（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

21 ヴァンソン藤井由実著，フランスのウォーカブルシティ：歩きたくなる都市のデザイン，学芸出版社，2023

22 パリ市「Paris respire・深呼吸するパリ」https://www.paris.fr/pages/paris-respire-2122（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

23 Budget Participatif，https://www.paris.fr/budget-participatif（2025 年 9 月 5 日最終閲覧）

（ 様式D-２ ）

1. 広域歩行者空間化の多様なプロセスと手法の明確化

コペンハーゲン（ストロイエ），オーフス（パークレット等），パリ（シャンゼリゼ通り等）における現地調査及びGehl，Spacescape：Alexander Ståhle氏 ，David Sim氏， Nina氏，ヴァンソン藤井由美氏等の専門家へのインタビューを通じて，中心市街地における広域歩行者空間化を実現するための具体的なプロセスと多様な手法が明らかになった。 特に，コペンハーゲンの段階的な空間拡大のプロセスやLocal Planによる公民の合意形成と計画コペンハーゲン市におけるパブリックライフリサーチチームの存在，オーフスやストックホルムにおけるパークレットの活用，David Sim氏が提唱するヒューマンスケールな都市デザイン（ソフトシティ），フランスの「15分都市」構想の実践的側面（藤井氏の調査による）等，各都市・専門家の文脈に応じた戦略を詳細に把握できた。

2. 日本の都市への適用モデル構築に向けた基盤的知見の獲得

GehlやSpacescapeらによる計画的アプローチに加え，David Sim氏（元Gehl）の視点から得られた「ソフトシティ」の知見は，日本の都市特性を考慮した広域歩行者空間化モデルの構築に不可欠な要素を提供するものであった。海外事例をそのまま適用するのではなく，住民のニーズ把握の手法（IDEE PARIS），合意形成のプロセス，パークレット（オーフス，ストックホルム）のような小規模な介入の重要性等，日本で実践可能なモデルの基盤となる知見を得た。

3. 国際的な知見の共有と実践的ネットワークの構築

各都市の専門家（Gehl，Spacescape：Alexander Ståhle氏，David Sim氏，Nina氏，ヴァンソン藤井由美氏）と直接対話し，国際的なベストプラクティスに関する深い洞察を得ることができた。このネットワーク構築は，今後の国際的な共同研究や日本の文脈に適用可能な実践的解決策を提案する上で強固な基盤となる。

4. 今後の展開

本派遣で得られた成果は，広域歩行者空間化の理論的及び実践的な枠組みを提供するものであり，都市計画の専門家や政策立案者にとって有益な参考資料となる。今後は，これらの知見を基に，日本国内の都市における**実証実験の実施**や**具体的な都市計画への応用**を提案・推進する。

また，本研究成果を日本都市計画学会都市計画論文集（査読付き論文）や著書を通じて公表し，持続可能な都市づくりの実現に向けた政策提言に繋げていく。